

アフラシヤブ遺跡壁画

現在のウズベキスタン、サマルカンド市内に位置するアフラシヤブ遺跡の「外国使節の間」壁画(7世紀半ば)は、1965年春、遺跡を横切る道路工事中に偶然発見されました。壁画は遺跡中心部の広間(11×11m)の四方に配置されています。

正面(西壁)に記されたソグド語銘文から「ヴァルフマーン王」という実在のサマルカンド王に由来する壁画であることがわかります。この正面の壁画に、中国、朝鮮、イランなど周辺諸国からアフラシヤブを訪れた使節が描かれているため、「外国使節の間」壁画と呼ばれるようになりました。

今回複製された白象の壁画は、左壁(南壁)の左側に描かれています。左壁全体は、中央に最も大きく描かれた「ヴァルフマーン王」と思われる騎乗した人物を中心に、馬や駱駝らくだに乗った男女の行列が南壁左端に描かれた都市あるいは城塞の中に入城する様子を表現しています。行列の中にはゾロアスター教の神官をあらわす白いマスクで口を覆った人物が2人いることから、この壁画は葬列など儀礼的な主題が描かれているといえます。

白象の背上の大部分は失われていますが、壮麗な鞍敷きの後尾には乗り手の女性が1人残されています。女性の前方の失われた部分には、この女性が膝上に抱えていたハープや他の楽人が描かれていたという見方もあります。



アフラシヤブ遺跡